

信州大学知の森基金を活用したグローバル人材育成のための短期学生海外派遣プログラム
実施状況および成果

プログラム名	健康教育のグローバル人材養成プロジェクト～信州から世界の子どもに健康を～		
学部・研究科名	教育学部		
実施期間	2014 年 9月 10 日 ～ 2014年 9月 23日 （14日間）		
研修先(国・都市・施設名)	ラオス、サワンナケート県、チャンパサック県 教員養成校及び村落部		
参加者数	5名	知の森基金からの支援者	5名
プログラム概要	本プログラムでは、開発途上国での参加型のフィールドワークの機会を提供することで、グローバルな視点で、健康問題を取り巻く文化や社会的背景を理解し、健康増進のための教育活動を行うことができる人材の育成を目指した。具体的には、アジアで最も開発の遅れている国の一つであるラオスに渡航し、プログラム提案者が、2009年度より、ラオス教育省の公式なモデルプロジェクトとして進めている、ラオスの国立大学教育学部および地方の教員養成校との連携による、健康教育の質的向上のための人材養成のプロジェクト(教員研修および現地のフィールド研究)に、学生を参画させた。現地では、学校見学、医療施設の見学、村落見学などのほか、近年、ラオスの青少年育成における大きな問題の一つともなっている麻薬やアヘン等の違法薬物の使用に関する予防教育の実践、教員養成校およびその周辺校での健康診断活動に参画した。さらに、同時期に、他大学から参画した学生との交流活動、文化理解のための寺院、博物館見学等を行った。		

実施状況・成果

- プロジェクトの実施を通して、参加学生は、当初目的としていた、
- ①ラオスの文化・社会に対する理解、
 - ②健康問題の現状とその背景要因に対する理解、
 - ③健康診断活動や、健康教育の実践を通じた教育的実践能力の涵養、
 - ④コミュニケーション能力の育成を図ることができたと考える。

特に、日本とは、異なる文化や社会背景の中で、子どもたちや、教員養成機関の学生を対象に、違法薬物の予防教育を開発し、実践していく中で、ラオスの国の健康問題の背景や対応策が日本と異なることに気づき、社会の現状に応じた教育を行っていくことの重要性に気付くことができたのではないかと考える。

また、教材開発を通して、単に英語の能力を高めるだけでなく、相手の文化や社会を理解し、さらに、健康教育に関する専門的知識と経験を習得していなければ、現状に即した教材を開発できないことを実感してくれたのではないかと考える。

これらの実体験を通して、グローバルな世界で必要とされる専門性と、コミュニケーションスキルについて、学生なりの考えを持ち、今後の学生生活の学びの原動力になってくれることを期待したい。今後の課題としては、継続的にプログラムを実施していくことが必要であると考えている。

また、今後も、実践と学びを往還するような形でプログラムが進められるように、事前学習と、事後のフォローアップを充実させていくことができると良いと考えている。また、今回の経験を、発表会等で報告する機会を設けたことで、参加学生の学びを振り返る機会とするとともに、他の学生にも学びを共有できたのではないと思う。

最後に、知の森基金より、ご支援をいただいたことで、学生の学びのきっかけを創出することができ、心より感謝しております。ありがとうございました。

学生の声①－教育学部学生

私がラオスのスタディーツアーに参加した動機は、大学生になりアジアの国々を訪れるうちに、日本人である自分が途上国の人たちに対して何ができるのだろうと思うようになったからです。また、それを考えるために、実際に途上国に行ってみたいと思ったからです。現地では、健康教育及び健康診断を行い、2つのことを学びました。1つ目は、様々な意見や価値観を受け入れる広い心の大切さです。ラオスに滞在し日本とは異なる環境に身を置くことで、多文化理解の精神や、自分とは違う価値観を受け入れる心を育むことが出来ました。2つ目は、健康教育や環境教育の大切さです。日本で当たり前に行われている健康診断は、まだラオスには根付いておらず、途上国にこそ、健康指標や病気の予防などを浸透させなければならないと思いました。様々なことを考え、自分を成長させることができた2週間でした。

学生の声②－教育学部学生

私がラオスのスタディーツアーに参加した動機は、海外で様々な活動をしてみたいと思ったからです。スタディーツアーでの主な活動は、ラオスの小中学生に健康診断や健康教育を行うこと、ラオスの教員養成校を拠点として健康診断の活動を普及させることでした。健康教育では、薬物使用に対する予防教育を行いました。日本で授業作りに多くの時間を費やし準備したのですが、いざ、ラオスで授業をすると全くうまくいきませんでした。授業の実践を通して、ラオスと日本との価値観の違いを感じ、ラオス人にとって良い授業となることが大切だと学びました。今回のスタディーツアーを通して、「伝えることの難しさ」を実感し、また、どう伝えるのかではなく何を伝えるのかが大切であることを学びました。

ラオス中南部の農村部における
小学校での健康診断活動の様子



ラオス中南部の農村部における
中学校での薬物使用防止教室の様子

